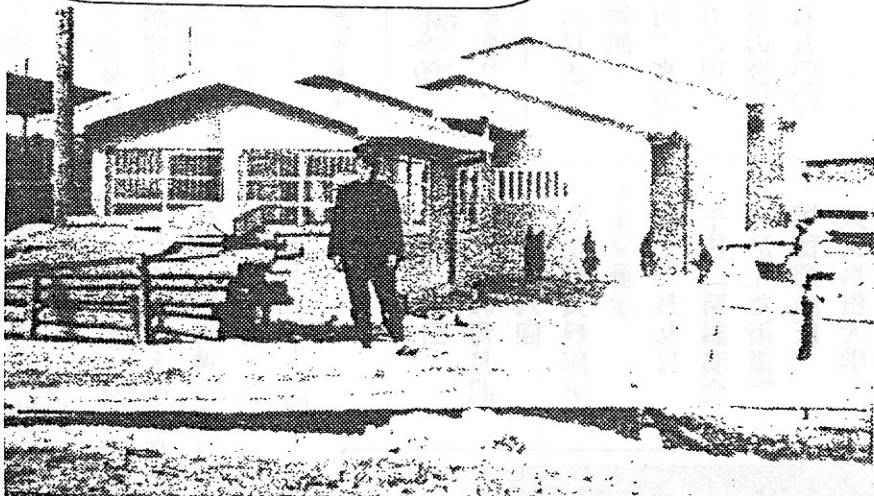


昭和12年・千里丘駅西口 駅は昭和十三年完成、工事中の写真か？

撰津なつかし写真館



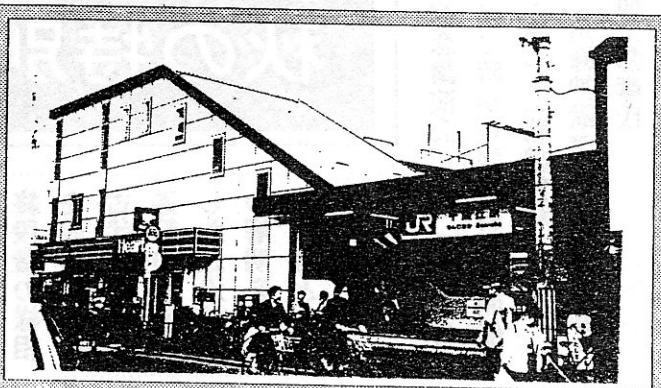
郷土撰津 いにしえ通信

第19号

平成十一年十一月一日
発行
撰津市三島一丁目一番一号
撰津市教育委員会
生涯学習部 生涯学習課

昭和40年代撮影当時の千里丘駅西口

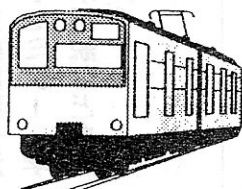
現在の千里丘駅西口



が味舌町になったとき現在の千里丘二丁目・三丁目は大字千里丘となり、正式に千里丘の名称が出来ました。
現在の千里丘駅は橋上式になっていますが、それまでは地下道を利用して東口と西口とつながっていました。出来た当時は、地下道もなく、線路をいくつもまたいで渡ったそうです。

第8回

千里丘駅いま・むかし



千里丘陵は昔から、千里山（ちさとやま）寝山（ねやま）九十九谷（つくもだに）と呼ばれていました。大正十年北大阪電鉄が開通、千里山駅（せんりやまえき）が出来、この千里山の名称がこの頃定着しました。昭和十三年国鉄千里丘駅が出来たので、この付近を通称千里丘と呼ばれていました。昭和二十五年味舌村

文化・芸術の秋
 秋風も心地よく絶好の行楽シーズンとなりました。この時期には府内各地の博物館などで秋の特別展示・テーマ展示が開催されており、行楽のおり、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。
 歴史探索の秋

江戸時代の吹田

古文書と絵図が語るもの

【とき】十一月二十八日まで
 【ところ】吹田市立博物館
 【入館料】大人二〇〇円、高校生一〇〇円、小中生五〇円
 【休館日】月曜日・祝日の翌日
 ☎〇六一六三三八一五五〇〇

◎今日まで大切に受け継がれてきた古文書や絵図は、その地域に、その時代に、さまざまな人々の日常の営みがあったことを明らかにしてくれま。いろいろな角度から、古文書や絵図が語りかける世界や意味を考えるには絶好な展示です。

街道とその周辺の遺跡

【とき】十一月二十四日まで
 【ところ】茨木市立文化財資料館
 【休館日】毎週月曜日午後・火曜日・祝日
 ☎〇七二六一三四一三四三三

◎第三五回
 茨木市教育月間
 ◎第十六回
 文化財資料館テーマ展示
 ○十一月七日
 午後二時講演会
 『消えた街道』
 福留照尚氏
 (元島根大学教授)

古代国家胎動

【とき】十二月五日まで
 【ところ】池田市立歴史民俗資料館
 【休館日】毎週月・火曜日
 十一月二十四日



秋の特別展示

◎今回の特別展では、石製腕飾類の推移に焦点をあて特に、その最終段階の様相を明らかにし古代国家形成過程の混沌とした政治状況の解明を試みる内容となっています。

○記念講演会が十一月十四日午後二時から同資料館で開催されます。(聴講無料)
 「三角縁神獣鏡から石製腕飾へ」
 河上邦彦氏
 (奈良県立橿原考古学研究所)
 ☎〇七二七一五一―三〇一九

仙界伝説 赤坂の求めた世界

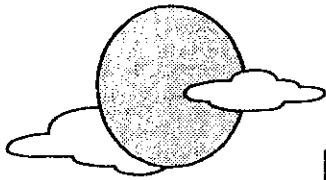
【とき】十一月二十八日まで
 【ところ】府立弥生文化博物館
 【休館日】毎週月曜日
 【入館料】大人六〇〇円、高校生四〇〇円、小中生・六五歳以上・障害者手帳を持つ方は無料
 ☎〇七二五一四六一二二六二

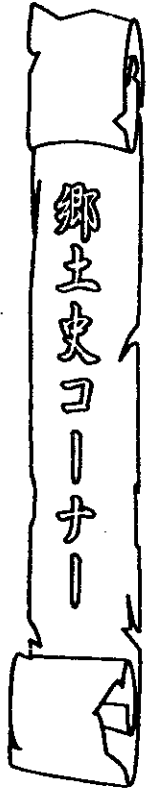
◎会期中は日中友好国際交流講演会、考古学セミナー、学芸員による展示解説なども開催されています。

近飛鳥が語るもの

【とき】十二月十二日まで
 【ところ】府立近つ飛鳥博物館
 【休館日】毎週月曜日
 【入館料】大人四〇〇円、高校生三〇〇円、中学生以下・六五歳以上・障害者手帳を持つ方は無料
 ☎〇七二二一九三二八三二二

◎会期中は博物館トーク、近つ飛鳥ウォークなども開催。





□■鳥養上之村□■

鳥養郷の東端にあり、千間繩手を境に東は島上郡柱本村(現高槻市)があり、南の淀川堤上を大坂街道が走り、これに沿って集落を形成して来ました。室町時代、菊亭教季知行の鳥養牧「三ヶ村」の一つであったと考えられます。

鳥養郷のなかでは比較的高所にありますが、天保八年(一八三七年)の「郡秘録」によると、低湿な耕地に盛土をして土地を改良する地上普請も行われました。同十二年(一八四一年)には字地蔵の水田(みずた)三反余を約一尺地上げて中田に改良する普請願が当村百姓から高槻藩役所に差出されています。戸数は文政十年(一八二七年)に八十九ありました。享保元年(一七一六年)には農民手船として尿船が幕府から認可され、後に尿船は淀川水系の物資の運送まで行われました。

用排水は柱本村の淀川堤に設置された実正樋から取水する

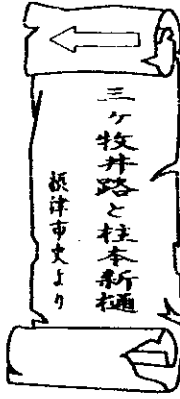
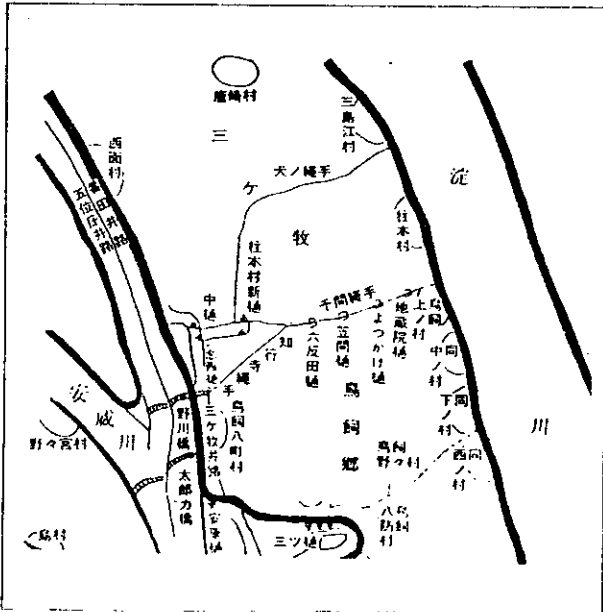
か、千間繩手の諸樋から同村の余水を受け、下手の村の田に排水しましたが、弘化二年(一八四五年)に当村から鳥養八坊三ツ樋に至る大井路が開削されますと、これに排水しました。元禄五年(一六九二年)の寺社吟味帳写によりますと、村内には、西誓寺・誓覚寺のほか、禅宗天照庵、浄土宗地藏院、程知庵、知行寺がありました。又、字御所垣内には「大和物語」にみえる宇多天皇の離宮鳥養院跡と伝える地があります。

□■鳥養中之村□■

鳥養上之村の西に接し、南は淀川に面しています。集落は大坂街道沿いに連なっていました。村内には干藻職(寒天製造)株保有者もいました。文化二年(一八〇五年)高槻藩への同株免許の請書にも連署しました。水は淀川堤の樋から取水し下手の村へ排水しました。大井路開削後はこれを排水路としました。村内には、現在でもある勝安寺と長音寺がありますが、「撰津志」には常楽寺があると記されています。

鳥養上・中・下の三ヶ村に接して

安威川沿いに細長く延びる村です。安威川上手は、三ヶ牧郷西面村(現高槻市)があります。同村の千間繩手中樋から新在家浦に至る三ヶ牧井路が、安威川に並行して村内を通っています。集落はこの井路の両側と安威川沿いにあります。西端を茨木村方面への道が通り、



安威川には太郎ヶ橋が架かり、対岸島村(茨木市)と結ばれています。用水は鳥養中之村と立合の淀川堤樋や安威川堤樋、千間繩手北端の用水樋から取水するほか三ヶ牧井路からも水を引きました。◎次号では、鳥養のその他の村々を紹介します。

平凡社「大阪府の地名」より担当 (茗荷)

考古雑話

第 1 9 回

撰津市と水田の考古学

水田発掘のあゆみ(七)

前回は水田の立地をAとD類に分類し、主な遺跡について紹介しました。

これらの分類を概観しますと、農業生産の発達と古代の開発とは切り離せない関係にあることに思い至ります。農業生産の発達には①耕地の外延的拡大②単位面積当りの収量の増加という二つの側面が従来より指摘されてきました。

(広瀬和雄「古代の開発」『考古学研究第三十号二巻』)

土地所有が明確化される以前においては、未開な大地が拡がっていたことでしよう。その土地を外延的に拡大することに多大な努力を要したものとされます。しかし現在の考古学の所見からは、いつ

外延的に飽和したかについては諸説があり、これからの課題として残されています。

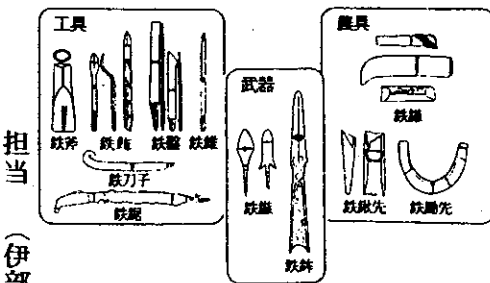
両者は有機的に結びつき、一概に段階的に論じることができないものです。しかし、一般的には、次のような変遷が想定されます。

- (a) 弥生時代初期、木製農具による湿潤な低地を対象とした水稲耕作を中心とした時期
 - (b) 中期末からの鉄器の普及と灌漑水田が出現する時期
 - (c) 古墳時代の巨大な前方後円墳築造に見られる高度な設計測量技術に基づく大小の溜池、堰堤が築造される時期
 - (d) 開発の一定の到達点ともいうべき条里制水田の時期
- ◎次号では、これら開発の変遷と撰津市との関わりについて考えてみましょう。

- 古代の開発に関する論考
- 近藤義郎「初期水稲農業の技術的達成について」
- 『私たちの考古学』
- 近藤義郎「弥生文化論」
- 『岩波講座日本歴史一』
- 近藤義郎・岡本明郎「日本の水稲農耕技術」
- 『古代史講座三』
- 門脇禎二他「生産の発達・序説」
- 『日本の考古学V』
- 岡本明郎「農業生産」
- 『日本の考古学V』
- 岡本明郎他「生産力発展の諸段階について」
- 『考古学研究第一六巻一号』
- 都出比呂志「農具鉄器化の二つの画期」
- 『考古学研究第一三巻二号』
- 下条信行「弥生時代の農業技術の発展」
- 『日本考古学を学ぶ2』

※その他にも古代の開発に関する論考や論文は多数あります。少しでも興味をお持ちになりましたら、生涯学習課までお問い合わせ下さい。

鉄器の種類



担当 (伊部)

『考古学キーワード』有斐閣1997より

【て】 鉄器

○弥生時代の特徴としては、稲作技術の導入、大陸文化との交流そして金属器の使用が挙げられます。○弥生時代における鉄器の使用は青銅器の発達と合わせて重要な問題です。○用は弥生までさかす。早くの鉄鎌・鉄斧・鉄刀子などが挙げられます。この頃は舶載品で中期から次第に国産化が始まると言われています。○古墳時代には大陸技術の新しい導入により、その種類も武具などを含め飛躍的に増加します。



鉄器の使用は弥生時代の前期のほりまは鍛造品鉄斧・鉄刀子などが挙げられます。